

消えない言葉

子どもの権利擁護委員 小笠原 仁美



近年、スマートフォンの普及により、SNSは子どもたちにとって身近なコミュニケーションツールの一つとなっています。小学生のうちからスマートフォンを持つ子どもも珍しくなくなり、防犯対策や習い事の連絡手段として活用している家庭も増えています。

その一方で、2024年頃から、当センターにもSNSに関する相談が寄せられるようになり、相談を受ける機会が少しずつ増えてきました。内容としては、写真や動画の無断使用、ネット上での悪口や誹謗中傷、LINEグループ内でのトラブルなどです。

SNSによるトラブルというと、インターネット特有の問題のように感じられるかもしれませんが、その多くは昔からあった悪口や仲間外れ、うわさ話が、SNSという新しい道具を使って行われているとも言えます。

ただし、SNSにはこれまでとは異なる特徴があります。投稿された言葉や画像、動画は瞬時に広がり、多くの人目に触れる可能性があります。また、一度拡散されたものを完全に削除することは容易ではありません。こうしたSNSの特徴が、被害を受けた子どもの心に深い傷を残してしまうことがあります。

コミュニケーションに関する書籍『人は話し方が9割』では、人との関わりにおいて、言葉そのものだけでなく、表情や声の調子なども大切な役割を果たしていることが述べられています。私たちは普段、相手の表情や話し方から、その言葉に込められた気持ちを受け取っています。

しかし、SNSでは文字だけが相手に届きます。そのため、書いた側は軽い冗談のつもりだったとしても、受け取った側には強い言葉として伝わってしまうことがあります。また、会話の中で発せられた言葉は時間とともに薄れていきますが、文章として残された言葉は何度

も目にすることができ、傷つく言葉が書かれた投稿やメッセージを繰り返し見ることで、その傷がより深くなることもあります。

SNSの利用そのものが悪いわけではありません。子どもたちにとってSNSは、友人との交流を深めたり、情報を得たり、自分の興味や関心を広げたりするための便利なツールでもあります。

だからこそ大切なのは、「使わせないこと」ではなく、家庭や学校で安全な使い方について繰り返し話し合うこと、そして困ったときに安心して相談できる環境をつくることではないでしょうか。子どもたちは成長とともに行動範囲や人間関係が広がり、SNSとの関わり方も変化していきます。そのため、一度ルールを決めて終わりではなく、その時々年齢や状況に応じて使い方を確認し合うことが大切だと思います。

子どもたちが安心して生活し、自分の気持ちや悩みを安心して伝えられることは、大切な権利の一つです。ネット社会が当たり前となった今だからこそ、私たち大人には、画面の向こうにいる子どもたちの気持ちに目を向け、子どもたちが安心して助けを求められる環境を整えていくことが求められているのではないのでしょうか。

【参考資料】永松茂久『人は話し方が9割』すばる舎、2019年9月

